流れ、出合い、浸透する　仙台文化発信のみなもと

駅前からエントランス・交流ロビーへと連続する広場

段丘崖と河岸の緑地の連続としてあらわれる地形をまとった建築

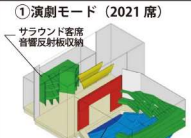
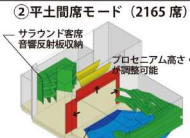
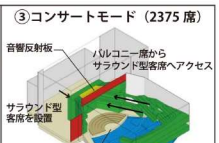
広瀬川に架かる中ノ瀬橋から景観上のビューポイントとして計画地を望む

流動的な輪郭の各階スラブにより、交流ロビー / ゲートウェイスペース / オープンギャラリーの活動が垣間見えます

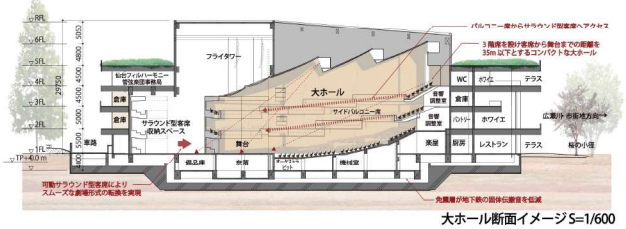
クワイエットスペースは共通ロビーに面した、誰でも利用しやすい位置に計画します。開口を絞ったトップライトから自然光が入り、移ろう空の表情を見上げながら、気持ちを落ち着かせて静かに過ごすことを意図した空間です。

共通ロビーは縦動線と接続することでホールのホワイエにも、災害メモリアルの展示スペースへも回遊するように訪れることが出来ます。吹き抜けに面した大型ビジョンも、ロビーどこからも見えやすい関係です。

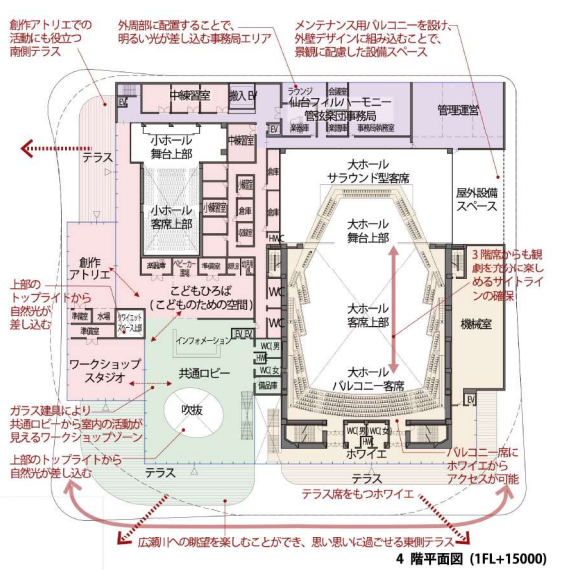
大ホールのモードチェンジ

①演劇モード（2021 席）	②平土間席モード（2165 席）	③コンサートモード（2375 席）
		
オーケストラピットは、昇降床を下げてオーケストラピットとしての使用に対応する。昇降床部分の平土間席が使用できなくても 2000 席を確保している。	昇降床部分を平土間席として利用する。プロセニアムの開口は幅：14.4m～24.4m、高さ：11.0m～17.0m に可変し、多様な演目に対応が可能。	サラウンド型客席をバルコニー席と接続し、サラウンド型のコンサートホールを実現。昇降床によりオーケストラ用のひな壇を設置。音響反射板と、バルコニー席は初期反射音を演者へ返し演奏のしやすいホールを実現する。

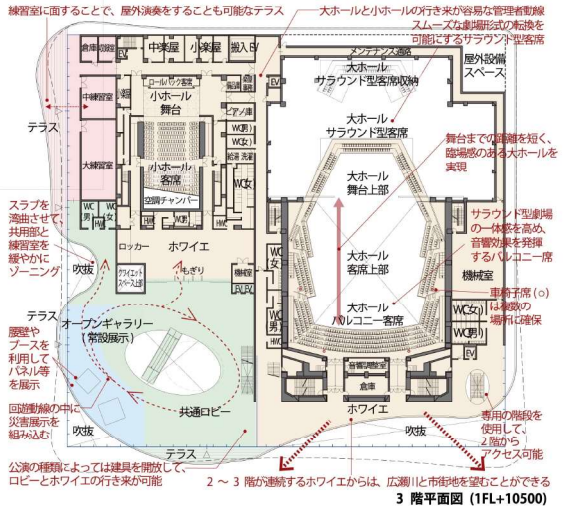
オーケストラによるコンサートを中心とした多目的なイベント形式に対応した大ホール
可変式プロセニアムを持つワインヤード形式の座席構成とし、ブロックに段差を設けて配置することにより生じる客席内の壁面を利用して音響的に有効な初期反射音を得る理想的なホールを目指します。



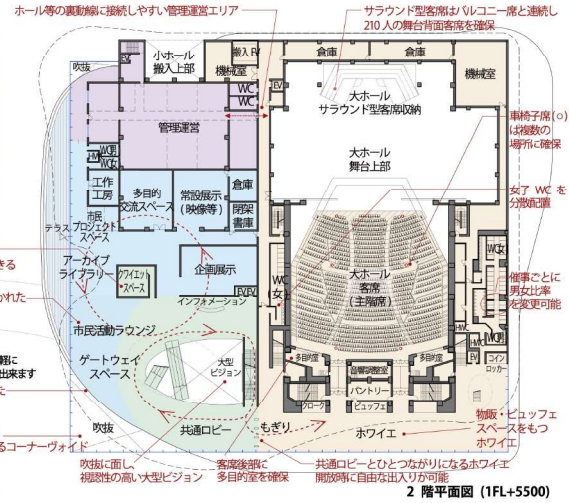
大ホール断面イメージ S=1/600



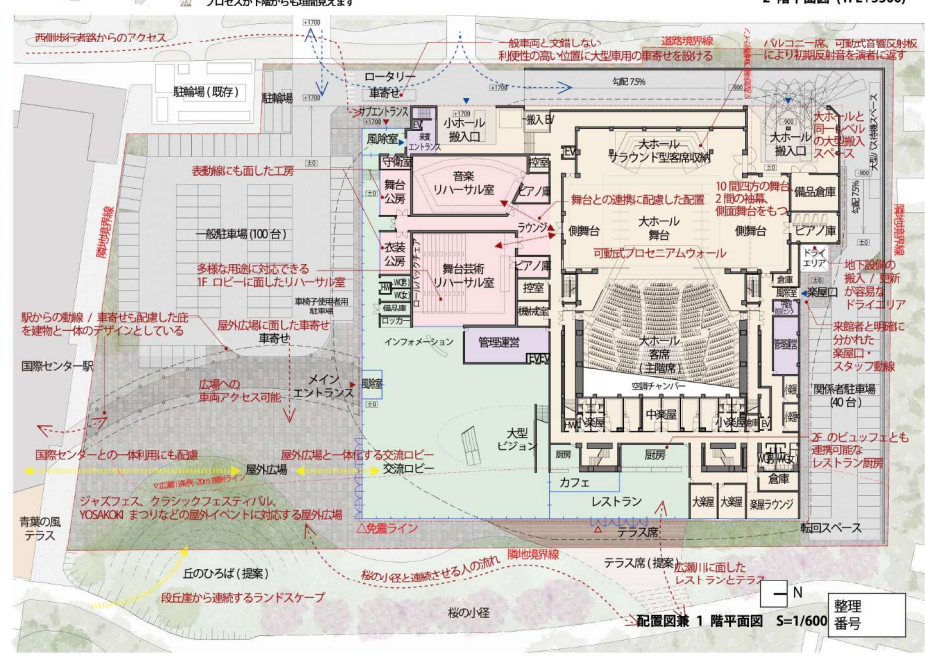
4 階平面図（1FL+15000）



3 階平面図（1FL+10500）



2 階平面図（1FL+5500）



配置図兼 1 階平面図　S=1/600

整理番号